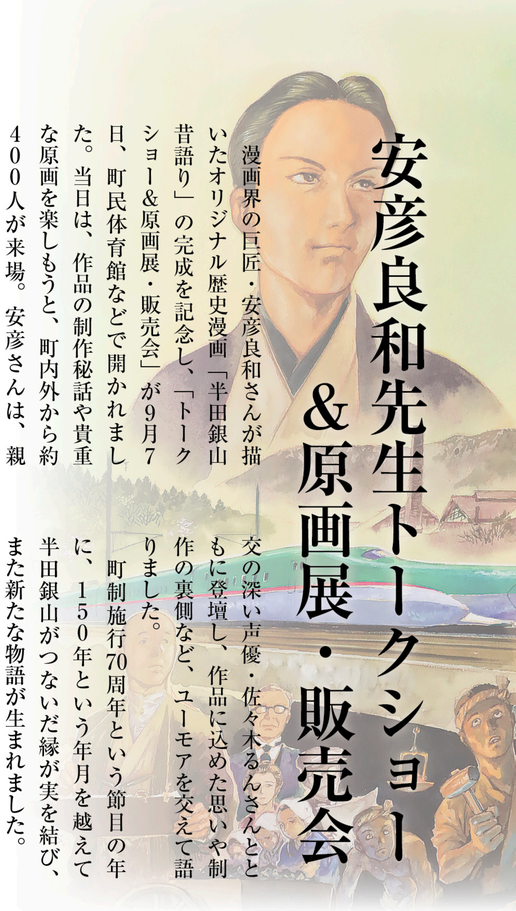
安彦良和先生トークショー&原画展・販売会



漫画界の巨匠・安彦良和さんが描いたオリジナル歴史漫画「半田銀山昔語り」の完成を記念し、「トークショー&原画展・販売会」が9月7日、町民体育館などで開かれました。当日は、作品の制作秘話や貴重な原画を楽しもうと、町内外から約400人が来場。安彦さんは、親交の深い声優・佐々木るんさんとともに登壇し、作品に込めた思いや制作の裏側など、ユーモアを交えて語りました。

町制施行70周年という節目の年に、150年という年月を越えて半田銀山がつないだ縁が実を結び、また新たな物語が生まれました。

本作は、町が誇る歴史遺産の一つ「半田銀山」を題材に、「機動戦士ガンダム」のキャラクターデザインで知られる安彦さんが特別に描き下ろした作品です。安彦さんは、曽祖父が半田銀山で絵図面師として活躍していたことを知り、自身のルーツを辿るため令和5年4月に来町。そこから町との交流が深まり、昨年11月に開かれた「半田銀山シンポジウム」で、「半田銀山をテーマに漫画を描きたい」と語ったことをきっかけに、制作が始まりました。

物語は、明治時代以降の半田銀山再興について、曽祖父・兵太郎さんを中心に描き、自身のルーツを重ねる内容です。巻末には詳細な歴史解説も掲載。繊細なタッチで表現されたドラマティックな世界観とともに、半田銀山の歴史的価値、そこに生きた人々の息吹を深く感じられる作品となっています。

作品の購入方法などの詳細はこちら▶

先祖の足跡から紡ぐ半田銀山の物語

安彦 良和 さん

自分のルーツが半田銀山に関わっているというだけでは、制作には踏み出せませんでしたが、五代友厚という人物が絡んでいることを知り、物語性を感じました。歴史好きとしても描く価値があると思い、取りかかりました。現在、ヤングジャンプで連載している「銀色の路－半田銀山異聞－」は、エンタメ性を重視していますが、「半田銀山昔語り」は、私の先祖の姿を描いたより個人的な作品です。曽祖父のような、いち商人・いち庶民が、五代のような歴史を動かした人物と接点を持ったのかもしれない、名もなき人にも歴史を動かす瞬間があったかもしれない、そんな視点で描きました。私の家系を辿るエピソードが中心ですが、その時代に生きた庶民の暮らしや思いは、多くの方と通じるものがあると思います。自分の先祖はどんな暮らしをしていたのか、こうだったかもしれないと重ね合わせ、思いを馳せながら読んでいただけたらうれしいです。遠い昔があって今がある―そのことを伝えられたらと思います。

1_トークに聞き入る400人もの来場者 2_原画展を巡る安彦さんと町長 3_「これからも楽しみにしています」とファンから声援を受ける安彦さん 4・5_貴重な原画を間近で見られる原画展

原爆投下の日に、広島を訪問 戦争・平和と向き合う3日間

平和学習派遣事業が8月5日から7日に行われ、各小学校6年生の代表児童5人が参加しました。

児童らは、広島市の平和記念式典に参列し、市長による平和宣言やこども代表の平和への誓いを聞き、原爆の子の像に千羽鶴を奉納。被爆者体験講話では、当時の惨状を語る生の声に触れることができました。また、広島平和記念資料館では、戦争や原爆の悲惨さを物語る資料を目の当たりにし、現実に起こった出来事と真剣に向き合うなど、児童らは、戦争の恐ろしさや平和の尊さを熱心に学びました。

1・2_広島平和記念資料館 3_原爆の子の像に千羽鶴を奉納 4_原爆ドーム 5・6_平和学習派遣事業報告会

voice　醸芳小　伊藤 悠磨 さん

平和記念資料館で見たボロボロになった服や焦げた三輪車、被爆体験者が語った原爆の惨状など、平和学習を通して戦争の悲惨さや人々の苦しみを知りました。二度と戦争を起こしてはいけないという思いが強くなるとともに、広島で起きたことは、何十年、何百年と語り継がれなければならないと思いました。私も、どうしたら平和な世界になるのか自分なりに考え、周りの人にも伝えていきたいです。

voice　半田醸芳小　佐藤 月緋 さん

平和記念資料館で、原爆が落とされる前後の資料を見ました。とても悲惨で、その時が今も資料館にとどまっているようでした。広島には、外国人もたくさん訪れていて、核兵器をなくそうと思っているのは日本人だけではないと安心しつつ、戦争の恐ろしさを伝えるために、自分にできることを少しでも実行していかなければと思いました。記念館に置かれた「原爆からの日数」を刻む時計が進み続けるようにー。

voice　醸芳小　山木 渉 さん

戦争が起こる要因の一つは、フラストレーションが溜まることだと、平和サミットで国連事務次長の中満泉さんが語った言葉が印象に残りました。国同士なら戦争に、友達同士ならいじめなどにつながります。戦争を起こさないためには、一人一人が不平等に目を向けることが大切だと学びました。とても難しいことかもしれませんが、実践し、私たちにもできることがあると伝えたいです。

voice　伊達崎小　石幡 心美 さん

平和記念式典で子ども代表の人が話した「周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないでしょうか」という言葉が今も心に響いています。これから私は、平和のために行動すると決めました。今回の貴重な経験を忘れず、自分の目で見て肌で感じた平和の尊さを一人でも多くの人に伝えていく存在になりたいです。私の一歩が未来へつながると信じています。

voice　睦合小　佐藤 凛 さん

平和サミットで最も心に残っているのは、被爆者の体験談です。思わず耳をふさぎたくなるような実話は、原爆の恐ろしさを私に伝えるのに十分でした。当時を生きた人々は、私が感じた何百倍もの恐怖を感じ痛みと戦っていたんだろうなと思いました。戦争や被爆を経験した人が少なくなっていく中で、私たちには「伝え続ける」役割があります。自分ごととして考え、どのように生き、未来をどう創っていくべきか、真剣に考えていきたいです。